

「南米パラグアイと日本」

令和 6 年 10 月 16 日

川原 英一（*）

10 月 11 日にパラグアイ新大使の着任記念レセプションが都内ホテルでありました。マリオ・トヨトシ新大使は日系二世であり、パラグアイで民間企業経営者として長く活躍をされておられた方です。日本とパラグアイの外交関係を樹立して以来今年で 102 年であり、また、日本人移住者によるパラグアイ移住が始まってから 88 年になります。



今年 5 月初め、岸田総理（当時）はブラジルとパラグアイを訪問された折、パラグアイではペニャ大統領と首脳会談をされています。私の勤務した中米グアテマラと同様、パラグアイも台湾との外交関係があり、今年 5 月 20 日の台湾新総統の就任式には同大統領自らが出席されています。なお、岸田総理は約 270 万人と日系人が世界で最も多いブラジルのサンパウロ大学で日本の対中南米政策も発表（注 1）されています。（注 1）中南米と共に拓く『人間の尊厳』への道のり（資料）

https://www.kantei.go.jp/jp/101_kishida/statement/2024/0504speech01.html

南米パラグアイは、日本から 2 万 9 千キロの位置にあり、米国ロサンゼルスないしは NY で飛行機を乗り継ぎ、リオ・デ・ジャネイロを経由するなどして 30 数時間かかります。ブラジル・アルゼンチン・ボリビアに周囲を囲まれた内陸国であり、国土面積は 40 万平方キロ超と日本よりは少し広く、首都アスンシオンでは、数千トン級の船が行き交うパラグアイ川という国際河川のゆったりとした流れを側で見ることが出来ます。

私のパラグアイとの出会い

1995 年頃、医療分野の二国間経済協力のため、パラグアイの首都にあるアスンシオン大学医学部付属病院の母子センター建設プロジェクトの調査ミッションで出張しました。遠く地球の裏側にあるアスンシオンに日本からゆくには、米国で乗り換え、さらにブラジルのリオを経由して 30 数時間かかりました。また時差が 12 時間あり、到着直後の活動は厳しかったと記憶しています。

同大学医学部付属病院は、貧しい人達も無料で利用できるもので、毎日、夜明け前から、たくさんの方々が、遠方から治療を受ける為に長い列をなしている状況でした。同病院内は、後から建て増しを繰

り返した病棟がいくつかあり、病棟間の移動は段差があり、重症患者をストレッチャーで病院内を運搬するのは不便で、患者を戸板に乗せて運搬しているのを見ました。母子センターの建設、必要な医療機材の供与のための大学病院側、同国政府関係者との協議に数日かかり、その後、合意文書に署名しました。

お世話になった J I C A 事務所に立ち寄った際、パラグアイへの日本からの移民の人達への支援も同事務所の重要業務となっていると職員の方から伺いました。高層ビル内にある同事務所の窓からは国際河川であるパラグアイ川が一望に眺められました。訪問当時の駐パラグアイ日本大使は、以前に香港総領事館で一緒した佐々木高久大使であり、公邸にご挨拶に伺いました。公邸は天井が高く、立派な石造りの白亜の建物であったと記憶しています。

日本大使館次席館員らと昼食をご一緒する機会もあり、市内レストランの庭で地元の人々の間で人気のバーベキュー料理で歓迎して頂きました。時差ばけで弱った胃腸への負担が大きくなりそうなので、食べるお肉の量は控えめにしました。パラグアイからは食肉輸出が盛んです。

日系人パラグアイ大使の就任披露レセプション

日系 2 世であるマリオ・トヨシ新大使の着任披露のレセプション会場入り口付近にはレシービング・ラインがあり、新大使御夫妻と御令嬢、主要大使館員、そして新大使の父であり自らも 8 年間（2009～2017）日本大使をされたナオユキ・トヨシ元大使御夫妻もお立ちで、皆様にご挨拶を致しました。（➡写真：マリオ・トヨシ新大使（右側）と筆者）



新大使は、前日、10 月 10 日の午前、陛下への信任状を捧呈され、陛下と直接にお話することが出来たことをとても喜んでおられました。大使夫人は日系 3 世の方で、文科省国費留学生として上智に留学された当時、ICU に留学中の大使と知り合ったとお聞きしています。

新大使の就任御挨拶の前に、ペニャ・パラグアイ大統領からのビデオ・メッセージが会場内に設置された大型画面に映され、英語メッセージも表示されました。同大統領のご挨拶の中で、今年は日本人移住 88 周年であり、来年 4 月に開幕する大阪・関西万博の開幕式には、自らが御出席する予定であることも述べておられました。

マリオ・トヨシ新大使の御挨拶は、長く友好関係のある両国関係の今後益々の発展を願うとても誠実な内容で印象深いものでした。大使からは、併せてパラグアイが世界有数の食肉輸出国であり、人口 7 百万人ながら、小麦・大豆などの食糧生産量は 1 億人相当分あること、2 年以上続いているロシアとウクライナとの戦争の影響を受けて、世界 1 位と 2 位を占めるこれら両国から途上国への食糧輸出が減

少する中で、不足する一部をパラグアイが供給していることもお聞きました。また、電力供給は、水資源が豊かで、ゼロ炭素排出の水力発電で賄えるとの発言もありました。同国の経済発展と共に電力需要は増大すると思いますが、当面は不足することはなさそうです。

レセプション会場では、故橋本元総理夫人（日本・ラテンアメリカ婦人協会会長）、宮下大使（外務省儀典長）、ICU 留学中のマリオ大使が知り合った恩師や同窓生・後輩にあたる方達にもお会いしました。お会いした方の中で特に印象に残るのは、ICU で長年にわたり日本近代史を教えておられたウィリアム・スティール名誉教授（※注 2）です。

（※注 2：2 年前、ハーバード大学歴史学部が主催した対談番組にスティール先生が登場して、幕末以降の日本について邦字新聞の連載漫画を使って講演しておられて興味深い。 <https://youtu.be/FDaQyIPNvx4> M. William Steele, "Japan in an Era of Uncertainty: Jabs by Editorial Cartoons, 2020-2021")

共通の話題は陸奥宗光

お会いしたスティール先生の奥様も長年にわたり東洋英和で日本史を教えておられ、外務省に入った理由を問われて、陸奥宗光や小村寿太郎が、日本と西欧列強との間で幕末に結ばれた、関税自主権がなく、領事裁判権を相手国に認めた不平等条約の改正に大いに苦勞した話を小学 6 年生の頃に読んで感心し、このような仕事を将来してみたいなと思ったのがきっかけですと話したところ、スティール先生からは、1981 年に国際基督教大学（ICU）で教鞭を執り始めたとき、当時の学生たちが幕末に活躍した勝海舟や明治維新にあまり関心を持っていないこと、1931 年から日本と中国が戦争していたこと、韓国が 1910 年から日本の植民地だったこと等知らなかった学生がおり、驚かれて、その後、第二次大戦前と同戦後を中心とした 20 世紀の日本史についての講義を始めたことを話されていました。高校日本史の授業では、明治時代以後、昭和時代まで教える先生が少ないと個人的経験を申しあげました。

私の話からスティール先生の自らの学生時代の研究課題についても思い出されたようです。米国の大学院で明治維新の頃を研究していたころ、恩師から陸奥宗光が晩年に書いた外交録である蹇蹇録（けんけんろく）を研究課題として進められ、漢文調の内容を読み解くのに随分苦勞されたことも知りました。

今の米国主要大学における東アジア研究では、中国研究を希望する学生の方が日本研究を希望する学生より遥かに多いと思います。しかし、私が米国フロリダに在勤していた 2011-12 年頃、訪問先のフロリダ大学日本学科の複数の准教授に日本とのかかわりについてお尋ねしたところ、自分たちが高校生や大学生の頃、学校の図書館には、紫式部の「源氏物語」や「徒然草」などがあり、読んでみて大いに興味深く感じ、もっと研究してみたいと思ったことがきっかけですと話すのをお聞きしたことがあり、少し前まで日本研究も米国の大学で盛んであったと感じていました。

スティール先生の研究分野とも重なるのですが、アジアの小さな島国であった日本が明治になって以

降、すさまじい勢いで世界の一流国家へ台頭したことは、欧米人から見てとても興味深かったようです。

エンリケ・ゴメス・カリージョというグアテマラ生まれで、欧州でジャーナリストとして大いに活躍した方がいますが、1905年に日本が世界最強のロシア軍に勝利したことに大いに関心を持ち、この方が日本を訪問し、当時の日本社会・人々の様子をつぶさに観察して、スペイン語の著書（注2）「誇り高く優雅な国、日本」（児嶋桂子邦訳）などの文献にまとめて、日本を西欧諸国に紹介しています。

（注2：（1912）. [*El Japón Heroico and Galante*](#) (in Spanish). Madrid, Spain:)

余談ですが、丁度今、毎日曜の夜、司馬遼太郎原作の番組「坂の上の雲」がNHKテレビ地上波で秋山兄弟（最後は、陸軍大将と海軍中将）、詩人正岡子規という3人の愛媛・松山出身者の半生を通じて明治期の日本を生き生きと描いているドラマが再放送されています。

レセプション会場では、スティール先生ご夫妻・家内と共に天ぷらなどの美味しいお料理を試食しつつ、とても愉快なひと時を過ごさせていただきました。

（*）筆者は、外務省参与、和歌山大学客員教授、元駐グアテマラ大使